

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.12	動作環境	機能変更	必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.5.2 に変更しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	Windows10の環境において、.NET Framework の追加インストールは必要なくなりました。
	瞬間復元ドライブ	機能追加	BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化により、ディスクが暗号化されたPCにて瞬間復元機能が動作するようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	動作モードが修復無効モードの状態では瞬快クライアントがインストールされたディスクイメージを配信する際に、修復モードに変更して終了させる機能を追加しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	-	
	利用情報収集	機能追加	利用情報収集機能で収集されたデータをCSV形式でエクスポートするツール(UseInfoExport.exe)を作成しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライブ	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合でも、各PCのUEFIの仕様の違いより、瞬間復元機能が正常に動作しない場合がある。	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合、瞬間復元用のブートローダーを登録しない動作に変更しました。これにより、各PCのUEFIの仕様の違いによる影響を受けなくなります。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	Ver.11.5c以降であれば次のレジストリ設定を行うことで回避可能です。 【64bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\Syunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001 【32bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\Syunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001	
	クライアント	瞬快クライアントの動作モードを修復モードにすると、OS起動時にSDBUS.SYSの異常によるSTOPエラーが発生する場合がある。	瞬間復元ドライブインストール時および修復モードへの変更時に次のレジストリ設定を行うことで異常の発生を回避するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\sdstor\Parameters] "PackedCommandEnable"=dword:00000000	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	問題が発生する場合は、左記のレジストリを手動で設定してください。	
	クライアント	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	瞬間復元ドライブインストール時および修復モードへの変更時に、暗号化の自動開始を抑止するべく、OSの設定変更を行うようにしました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	修復モードの状態にて Microsoft Office 2019 の自動アップデート用のタスクが無駄に動作する。	次の Microsoft Office 2019 のアップデート用のタスクを、瞬間復元ドライブインストール時に無効化するようにしました。 ¥Microsoft¥Office¥Office Automatic Updates 2.0	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、設定の変更を行っていないにもかかわらず、CDドライブが修復対象外の設定に変わってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	稀な事象であり、瞬快のお客様からの発生報告は、9年間に3件です。
	ウイルス対策ソフト連携	WindowsDefenderに仕様変更があり、WindowsDefenderのエンジンの更新があった場合に、更新された内容が次の瞬間復元動作により元に戻ってしまう。	WindowsDefenderと共存するための定義を変更しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリクライアントインストーラ	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	システムリカバリクライアント機能をインストール時に次のレジストリ設定を行うことで自動開始を抑止するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\BitLocker] "PreventDeviceEncryption"=dword:00000001	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリサーバインストーラ	システムリカバリサーバ機能は、版数アップ時に必ずアンインストールしてから新しい版数をインストールしなければならない。	システムリカバリサーバ機能の内部エンジンに変更が無い場合は、アンインストールせずに版数アップが可能となるようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	新しいシステムリカバリサーバインストーラを実行すると、版数アップ可能な場合は処理が継続され、版数アップ不可な場合は、警告メッセージを表示して処理を中断します。処理が中断された場合は、システムリカバリサーバ機能のアンインストールを行ってからインストールを行ってください。
	システムリカバリ	ブートエントリにWindows Boot Managerが2つ存在する、異常なPCのディスクイメージを取得して配信すると、瞬快クライアント機能のインストールが正しく行けない。	Windows Boot Manager が2つ存在する場合は、ブートエントリ異常としてディスクイメージ取得が動作しないようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリ機能の環境設定Wizardを使って、ディスクイメージのリソース保存場所変更を実施する際、データフォルダの新しい場所は指定できるが、ディスクイメージのデータは、あとから手動でコピーする必要がある。	新しいデータフォルダを指定した際に、イメージデータと関連するファイルも自動で移動されるように修正しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	機能変更	ディスクイメージ取得の際の通信プロトコルをUDPからTCPに変更しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ取得したディスク内に含まれる、システムリカバリクライアント機能を利用する管理ファイルが、暗号化されていたり、圧縮されていたりすると、ディスクイメージ配信の時にエラーとなってしまう。 このため、暗号化や圧縮を解除して、再度ディスクイメージ取得をやり直す必要がある。	ディスクイメージ取得の時に、管理ファイルが暗号化されていたり圧縮されていたりする場合は、エラーメッセージを表示し、ディスクイメージ取得ができないように、プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化の機能が有効になっているクライアントの場合、ディスクイメージの取得前のチェックが実施されないことで、ディスクイメージの取得開始後もしくは配信時に失敗する。	ディスクイメージ取得前にクライアントの状態を確認し、暗号化機能が有効な場合はエラーメッセージを出すとともにバックアップが動作しないようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	なし	暗号化を解除してからディスクイメージを取得してください。
	リモート画面操作	キーマウスロック機能にて、タッチパネルの操作はロックできない。	タッチパネルの操作もロックできるようにプログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	複数PC操作機能のパネル表示にて、クライアントPC側のディスプレイのアスペクト比と、コンソール側の表示のアスペクト比が一致せず、表示領域が非効率になる。	アスペクト比のデフォルト値を16:9にしました。 また、カスタムでアスペクト比を指定できるようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 共通	なし	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	リモート画面操作	複数PC操作のレイアウト表示画面にて、背景に画像を設定していた場合、レイアウト表示画面をマウスのホイールでスクロールさせると、背景の画像が崩れる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通	スクロールバーでスクロールを行ってください。	
	瞬快コンソール	1台の瞬快サーバに対して、複数のシステムリカバリコンソールから同時に接続できてしまい、それぞれのコンソールにて情報更新することで管理情報に矛盾が発生することがある。	システムリカバリコンソール起動中は瞬快コンソールを終了できないようにすることで、複数のシステムリカバリコンソールからの同時接続が発生しないようにしました。	【版数】 Ver.11.5系 【グレード】 上、特上	複数のPCに瞬快コンソールをインストールしないことで回避可能です。	1台の瞬快サーバに対して、複数の瞬快コンソールから同時に接続することはできません。
Ver.12a	Windows OS	サポートOS追加	サポートOSとして「Windows 10 Pro for Workstations」を追加しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	—	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードで運用している場合に、skfid.sysにて0x50のSTOPエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	2020年上期モデルの富士通製PCにて、標準設定の「A方式」にて修復モードにしようすると失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	復元方式を、「機能制限方式」にすることで回避可能です。	
	瞬間復元ドライブ	起動ディスクの先頭バージョンの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、モード切り替えが失敗し、場合によってはWindowsが起動できなくなることがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダの修復モードで運用中、修復対象領域にて新規作成もしくは更新したファイルに、読み取り属性を付け、他のドライブへ移動しようすると、処理に失敗しファイルが消失する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	移動せずにコピーし、コピー後にコピー元を削除してください。	更新前のファイルは残ります。
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにすると、フォルダが0バイトのファイルに見える事象が発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	Avid社の音楽ソフトウェアインストール環境にて発生することを確認しています。
	瞬間復元ドライブ	Windows 10 May 2020 Update (Version 2004) の環境において、メモリキャッシュ機能を有効にして修復モードにすると、システムイベントログに次のエラーが記録される。 ボリューム ボリューム (¥Device¥SKRamDisk) フル Chkdsk を実行するために、オフラインにする必要があります。コマンドラインで "CHKDSK /F" をローカルに実行するか、PowerShell で "REPAIR-VOLUME <ドライブ>:" をローカルまたはリモートで実行してください。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	修復モードではAutodesk社の2020年版ネットワークライセンス製品を起動できなくなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールに登録されている機器の「OS情報」にて、無線LANのネットワーク設定を「ネットワーク情報を更新する」に設定しても無線LANの「DNS」情報が更新されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールのスケジュール登録画面にて、アプリケーションエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理において、適用に1時間以上かかるような更新があった場合、クライアントPCが再起動を繰り返す状態になってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理途中で、意図しないPCの再起動が行われると、WindowsUpdate連携の処理が失敗してしまう。	意図しないPCの再起動が行われても処理を継続させるようにしました。	【版数】 Ver.12初以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携において、クライアント側で動作するBzWuAgent.exeがアプリケーションエラーにて終了してしまい、WindowsUpdate連携のスケジュールが失敗で終わる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	複数PC操作のグループの選択画面にてグループを選択すると、アプリケーションが異常終了する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	サーバ	瞬快サーバ機能のインストール後、瞬快DBのインスタンスが起動しない状況となることがある。更に、当事象の発生時、OSが過負荷状態になることで他のプログラムを起動できない等の状況に陥ることがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	次のコマンドにてサービスプログラム「SQL Server (NEBULA2010DB)」の依存関係を変更することで対応可能です。 sc config MSSQL\$NEBULA2010DB depend= KeyIso	
	ウイルス対策ソフト連携	エフセキュア13.11のパターン更新に失敗することがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
Ver.12a+	サーバインストール	瞬快サーバ機能のインストール時に「データベースの構築に失敗しました」のメッセージが表示され、インストールに失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12b	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、1つのフォルダ内に、同じ文字列から始まるファイル名のファイルが、大量に作成、削除を繰り返されると、作成、削除の回数に比例し処理速度が劣化する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	次の3つの条件を全て満たす場合に、瞬間復元ドライブのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しない場合がある。 ・ブートエントリが数百個以上存在している ・瞬快のマルチブート設定をしている ・パーティション単位の修復モード、もしくは、ファイルフォルダ単位の更新モードにしている	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライバ	Comet Lake に対応したプラットフォームであり、かつ、UEF環境の場合、次の何れかの復元設定を行うと、瞬間復元ドライバのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しなくなるなどの問題が発生する。 ・ファイルフォルダ単位での更新モードにした ・パーティション単位にて毎回起動時修復以外の修復設定を行った ・パーティション単位にて更新モードにした ・パーティション単位にて修復ポイントの設定を行った	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	HP社製PC等の復元方式をA方式にすると正常に瞬間復元機能が動作しないPCにおいて、A方式にしてドライバ異常が発生させ、この状態から版数アップを行った環境の場合、修復無効モードに変更すると十数秒で修復モードに戻ってしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	機能制限方式に切り替えてから版数アップを行ってください。	
	瞬間復元ドライバ	富士通製の2020年下期モデル以降のESPRIMOにてマルチブート環境を構築した場合に、瞬快でのマルチブートの切り替えができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	次の3つの条件を全て満たす場合に、PCがフリーズする場合がある。 ・OSが Windows 10 である ・Windows Defender を使用している ・ファイルフォルダ単位の修復モードにしている	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12a+以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12c	リモート画面操作	機能改善	通信量を最適化すべく、モニタリングや遠隔操作を行う際の画像品質を細かく設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	-	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールの機器管理にて機器情報をエクスポートする際、出力形式に参照用を指定すると、エクスポートされたCSVファイルのカラム名が間違っている。 【誤】 29カラム目：ネットワーク接続名 30カラム目：DNSのDHCPフラグ 【正】 29カラム目：DNSのDHCPフラグ 30カラム目：ネットワーク接続名	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	レガシーブートの環境にて修復モードに変更しようとした際に、環境によっては、次のメッセージが表示されてへ修復モードへの変更に失敗する。 [内容] 以下のファイルのコピー処理に失敗した可能性があります。 [コピー先ファイルパス] C:\ProgramData\Ysyunkai Product\Agent\YEnv\YSKSETTINGDATA.DAT	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通		
	瞬間復元ドライバ	次の3点の条件を全て満たす場合、3点目の変更指示後の2回目のOS起動タイミングより、黒画面で停止しOS起動しない状態となる。 ・レガシーBIOSもしくはBIOS互換の環境である。 ・瞬快のポリシーエディタにて「ディスク容量警告の閾値」を5%以下にしている。 ・更新モードもしくはパーティション単位の修復モードに変更した。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	「ディスク容量警告の閾値」は6%以上にしてください。 当事象が発生した場合、MBRを初期化することで修復無効モードで起動させることが可能です。	
	瞬間復元ドライバ	環境によっては、ファイルフォルダ単位の修復モードに切り替えると0x7f(スタックオーバーフロー)のSTOPエラーが発生する。	スタックの消費量を削減しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	リモート画面操作での「コマンド」実行機能では、管理者への昇格が必要なコマンドを実行できない。	「コマンド」実行機能にローカルシステム権限にて実行するオプションを追加しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	Version1803以降のWindows10のクライアントPCを遠隔操作する場合において、コンソールPCとクライアントPCにて、NumLock、CapsLockもしくはScrollLockの状態が一致しない場合、関連するキー入力がクライアント側へ正しく伝わらない。	クライアント側のNumLock、CapsLockおよびScrollLockの状態をコンソール側と同じにするための機能を、遠隔操作時の「特殊キー」を送信するボタンに追加しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	ドリームクラフト社のSafetyAnchorと同居したクライアント環境では、Windowsからのサインアウトに時間がかかる、もしくはWindowsからサインアウトできない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	
	ツール	NcDBLoader.exeコマンドによる、瞬快サーバのDBのエクスポート、インポート処理にて、次の情報が処理されていない。 ・システムリカバリのクライアントPCの詳細設定情報 ・システムリカバリのクライアントPCの無線LAN情報 ・システムリカバリのクレドール情報	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ配信においてOfficeのMAK認証を実施する際、Officeのライセンスが必要以上に消費される場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ配信において瞬快クライアントを修復モードに切り替える際、処理に失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	クライアントPCに有線LANと無線LANの両方を設定している場合、2つ目のNICに関し、システムリカバリコンソールのクライアントPCのプロパティを開き、クライアントPCの詳細設定を変更しても変更されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	WindowsUpdate連携	スケジュール作成時に、認証が必要なプロキシを設定した場合、設定内容によっては、当該スケジュールの編集の際にプロキシ設定の画面を開くと、瞬快コンソールが異常終了する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12b以前 【グレード】 共通	なし	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.12d	Windows OS	サポートOS追加	サーバ機能、システムリカバリサーバ機能およびコンソール機能のサポート対象として次のOSを追加しました。 ・Windows Server 2022	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	-	
	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Microsoft Edge の「お気に入り」を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	-	
	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Wi-Fiの接続情報を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	複数のディスクが搭載されたPCに対する、ディスクイメージ取得・配信に対応しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 上ノ特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	拡張サービスにて次の動作となるサービスを作成できるようにしました。 ・ディスクイメージ取得の際に内蔵ディスクから起動させない ・ディスクイメージ配信の際に内蔵ディスクから起動させない	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 上ノ特上	-	
	システムリカバリ	サポート製品追加	ボリュームライセンス版の Microsoft Office のアクティベーションを実施する機能の処理対象として次の製品を追加しました。 ・Office LTSC 2021	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 上ノ特上	-	
	瞬間復元ドライブ	PCの稼働中、瞬快のプロパティ表示にて表示されるディスク使用量が、PC起動時の使用量のまま更新されない。 また、ディスクの空き容量が閾値を下回った場合もPC起動時のみ警告が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、修復対象領域に存在する読み取り専用属性のファイル/フォルダに対し、delコマンドやrdコマンドによる削除指示を実行すると、本来のOS動作であればアクセス拒否のエラーが返されるが、これがアクセス拒否とならずに削除できてしまう。 ※PC再起動による瞬間復元では元に戻る。	OS標準の動作と同じになるようプログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Windowsにプログラムのインストールを行った場合、スタートメニューに登録されたプログラムのショートカット類が、ログインしなおさないと表示されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モードから修復無効モードへの切り替え指示を出した際に、その直後のPC起動からPC終了までの間、瞬快のログファイルである skfsd.log が1分に1MB以上のペースで肥大化する。 ※もう一度PCを再起動するとログは出なくなる。 ※Windows Search サービスが停止している場合は発生しない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	ログのファイルサイズが大きくなった場合でも、次回修復モードに切り替えた際に古い行が削除され、10MB以下に縮小されます。
	瞬間復元ドライブ	復元タイプをパーティションにした場合、クライアントPCのプロパティにてシステムドライブの使用量を表示する仕組みとなっているが、実際の使用量に変化があってもプロパティ表示が変わらない。 ※ファイルフォルダ単位の更新モードでも同様。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	Mastercam 2022 がライセンス認証されているPCにてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、C:\Windows のフォルダが、0バイトのファイルに見えてしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、Ver.12初版ではモード切り替えに失敗することがあり、場合によってはWindowsが起動しなくなる恐れがあるため、Ver.12a～Ver.12cでは修復モードにできないよう制限がかけられている。	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCでも問題が発生しないよう仕様変更し、制限も解除しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	瞬快クライアントがアラートを検知したとしても、クライアントPCに表示されたアラート通知への応答操作をしない限り、アラート情報が瞬快サーバへ通知されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	ファイルフォルダ単位の修復モードの場合、2022年度版のAutodesk社の製品のライセンス認証が正常動作せず使用できない。	2022年度版Autodesk社製品のライセンス認証処理に対応しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	瞬快コンソールにて「機器のプロパティ」のコメント欄に、半角のカンマ記号もしくは改行を入力すると、システムリカバリコンソールの起動に失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 上ノ特上	既存PCのプロパティを変更した場合は元に戻してください。 新規PC追加時にプロパティ入力した場合は当該PCを削除してください。	
	システムリカバリ	瞬快コンソールの[機器管理]-[機器操作]-[メンテナンス]のタブメニューを開き、100台以上の機器情報をエクスポートした場合、次の情報が最大100台分の出力となる。 ・システムリカバリの機器情報 PC管理情報.sro ・システムリカバリの無線LAN情報 PC管理情報.wlan	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	システムリカバリ	USBリカバリのディスクイメージ取得画面にて2本目のディスクを選択した場合、選択したディスクの空き容量を表示する際の描画処理に問題があり、状況によっては潰れた文字が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 特上	なし	
	ツール	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの操作において、定義ファイルの新規作成時に「瞬間復元機能なし」を選択して操作を進めると、次のメッセージ表示にて定義ファイルの作成に失敗する。 「定義ファイルの作成中に例外が発生しました。詳細：指定されたキーはディレクトリ内に存在しませんでした。」	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの起動時に、ラジオボタンで「既存の定義ファイルを編集する」を選択し、ToolフォルダにあるBzAgSinst.iniを選択してから作成を進めてください。	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	リモート画面操作	「単一PC操作」をスタートメニューもしくは起動用コマンドから起動する場合、内部処理の問題により起動処理途中で停止することがあり、この状態になると通常の操作では終了することも起動しなおすこともできなくなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、コンソール側のコンピュータを再起動してください。	
	リモート画面操作	遠隔操作中にコンソール側にてCtrl+Alt+Delキーが押下されOSの処理が中断された場合、OSの処理が回復された後には、通常であればコンソールからCtrl+Alt+Delキーは使えない旨のメッセージが表示されるだけとなるが、コンソール側からのクライアントキー操作ができなくなるとともにクライアントPC側でのキー操作もできなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、クライアントPC側にてCtrl+Altキーを押してください。	
	リモート画面操作	Windows8.1環境にコンソールをインストールした場合、遠隔操作中にコンソール側のWindowsOSのロックをすると、ロック解除後に遠隔操作を継続することができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、リモート画面操作のプログラムを起動しなおしてください。	
	リモート画面操作	ファイル回収機能にて「回収したファイルの保存先」にUNCパスを指定すると、先頭文字の＼を除いたパスを指定したことになる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	ネットワークドライブの割り当てなどにより、UNCパスを使わないようにしてください。	
	リモート画面操作	コマンド実行の機能において、コマンド文字列の左端と右端の両方をダブルクォーテーションにした場合、次回コマンド実行時に過去履歴を見ると、左端と右端のダブルクォーテーションが削除されている。 ※左端と右端の片方だけをダブルクォーテーションにした場合は削除されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	瞬快クライアント機能をインストールしたWindows 8.1のPCをキオスクモードにて利用した場合、指定したアプリが起動された後に、一瞬だけ画面がデスクトップに切り替わるような挙動をする。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12c以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12c	瞬間復元ドライブ	瞬間復元の動作モードを修復無効モードに切り替える際、元の状態が次のいずれかである場合に、稀に 0x1E のSTOPエラーが発生する。 ・更新モード ・復元ドライブがパーティション単位の修復モード	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12d以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	OS起動時のPC負荷が非常に高いクライアント環境の場合、OSのサービスコントロールマネージャーによるリモート画面操作機能のサービス開始処理においてタイムアウトが発生し、当該サービスの状態が実行中にならない。	1分間隔でリモート画面操作機能のサービスの状態をチェックし、実行中となっていない場合は開始を試みるようにしました。	【版数】 Ver.12d以前 【グレード】 共通	なし	
	スケジューラ	コマンド実行のスケジュールを参照作成した場合、「アクティブなセッションで実行する」のオプションの設定内容が引き継がれない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12d以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	USBリカバリ機能でのクライアントPCリカバリを実施する際、サービス適用先パーティションの選択を標準設定の「自動」からパーティション番号に変更した場合、「サービスのコピーに失敗しました。」のエラーとなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12d以前 【グレード】 特上	なし	
Ver.12f	メール送信	機能改善	メール送信機能において、TLS1.2とTLS1.3に対応しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリサバイブインストール	インストールに必要なフォルダが欠落している状態にてインストールが開始された場合には、インストール開始時にエラー表示されなければいけないが、エラー表示されずに最後まで処理が進み、正常終了と表示してしまう場合がある。	システムリカバリサバイブのインストール時の事前チェックにおいて、必要なフォルダのチェック処理を強化しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 上/特上	なし	
	クライアント	瞬間復元ドライブに関連するログが500MB程度まで肥大化する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	
	ツール	USBリカバリ用のブートメディアをコピーするツール提供する。	瞬快ToolにUSBブートメディアコピーツールとして SkBootMediaCopy.exe を加えました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 特上	なし	
	ドライブ	ファイルフォルダ単位の修復モード中におけるファイル移動処理において、移動先のパスの指定に %SystemRoot と表現するOS内部で使われる特殊なシンボリックリンクのパスの指定がされると、移動処理に失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライブ	EFIシステムパーティションもしくはシステムで予約済のパーティションの断片化が進行している場合、修復モードへの変更処理が失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 上/特上	なし	
	瞬間復元ドライブ	レガシーブートのWindowsにて瞬快を修復モードに切り替えると、Windows起動前の黒画面状態から、起動処理が進まなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12d Ver.12e 【グレード】 共通	なし	
	瞬快コンソール	瞬快コンソールからクライアントPCへの命令発行時に表示される処理中画面の「処理が終了したときに自動的にウィンドウを閉じる」のチェックボックスの状態が保存されない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	クライアント機能のインストール中に、リモート画面操作機能のサービスの登録を行う処理にてエラーが発生し、インストールが中断される場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	クライアント機能のインストール時に「瞬快復元機能なし」でインストールした場合、コンソール側に表示される「ウイルスパターン」列に、パターンファイルのバージョンが表示されず、ハイフンの表示となってしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12e以前 【グレード】 共通	なし	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.12g	クライアント	機能追加	ファイル・フォルダ単位の修復モードにてOneDriveを利用する場合に必要な修復対象外フォルダの指定が、瞬間復元の簡単設定から指定可能になりました。 指定するには、瞬間復元の簡単設定の画面から「Microsoft OneDrive情報」のチェックボックスをチェックしてください。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	—	
	クライアント	機能追加	ファイル・フォルダ単位の修復モードにおける修復対象外設定が標準設定のままでも Systemwalker Desktop Keeper および Systemwalker Desktop Patrol と共存できるようになりました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	—	Systemwalker Desktop Patrolにて以下の機能を使用する場合は、修復無効モードに切り替えて実行する必要があります。 ・ファイル配信 ・ソフトウェア配信 ・パッチ配信 ・アップデータ配信
	瞬間復元ドライバ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージに対応しました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	論理セクタサイズが4096バイトのストレージでは、復元方式が自動的に「機能制限方式」に設定されます。
	瞬間復元ドライバ	Windowsサンドボックスを起動する際、ファイル・フォルダ単位の修復モードの場合は、修復無効モードと比較し、数倍の起動時間を要してしまう。	プログラムを改修しました。 改修効果を出すためには、次のフォルダを修復対象外に設定する必要があります。 C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Containers\	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	DELL社製PCの一部の機種では、WindowsUpdate連携を開始してから数分経過後に次のエラーが必ず発生しWindowsUpdate連携処理が終了してしまう。 「WindowsUpdate処理実行中にエラーが発生しました。(ErrorCode=177)」	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	NVMe接続のRST (Intel Rapid Start Technology) 機能を有するストレージを搭載したDELL社製のPCでのみ発生します。
	サーバイnstローラ	瞬快サーバ機能の版数アップ・レベルアップを実施時に、瞬快サーバ機能のサービスプログラムである「BzSvWatch」サービスが削除されてしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集	電源オンのイベント情報には、瞬間復元の動作モードが付加されて記録されるが、この動作モードは次回電源オン時の動作モードとなっている。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集	インベントリ情報としてのソフトウェア情報の収集において取得されないソフトウェアがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12f以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.12h	システムリカバリ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージ環境で、ディスクイメージ取得／配信機能が動作するようになりました。	【版数】 Ver.12g以前 【グレード】 上／特上	—	
	システムリカバリ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージ環境でUSBリカバリ機能が動作するようになりました。	【版数】 Ver.12g以前 【グレード】 特上	—	
	資源配付	スケジュール設定を行った資源に対し、クライアントPCの割り当てを行っているにもかかわらず、配付指示が実行されない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12g以前 【グレード】 特上	なし	